

# 四半期報告書

(第111期第3四半期)

株式会社 愛媛銀行

---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

	頁
【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	2
第2 【事業の状況】 .....	3
1 【事業等のリスク】 .....	3
2 【経営上の重要な契約等】 .....	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	3
第3 【提出会社の状況】 .....	8
1 【株式等の状況】 .....	8
2 【役員の状況】 .....	10
第4 【経理の状況】 .....	11
1 【四半期連結財務諸表】 .....	12
2 【その他】 .....	20
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	21

独立監査人の四半期レビュー報告書

確認書

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年2月13日
【四半期会計期間】	第111期第3四半期(自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日)
【会社名】	株式会社愛媛銀行
【英訳名】	The Ehime Bank, Ltd.
【代表者の役職氏名】	頭取 本 田 元 広
【本店の所在の場所】	愛媛県松山市勝山町2丁目1番地
【電話番号】	松山(089)933局1111番(大代表)
【事務連絡者氏名】	企画広報部長 坪 内 宗 士
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区岩本町3丁目2番4号 株式会社愛媛銀行 東京事務所
【電話番号】	東京(03)3861局8151番
【事務連絡者氏名】	東京事務所長 大 宿 有 三
【縦覧に供する場所】	株式会社愛媛銀行 高知支店  (高知市はりまや町1丁目4番5号)  株式会社東京証券取引所  (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 高知支店は、金融商品取引法の規定による備付場所ではありませんが、投資者の便宜のため備えるものであります。

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

		平成25年度 第3四半期 連結累計期間	平成26年度 第3四半期 連結累計期間	平成25年度
		(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
経常収益	百万円	33,217	32,587	43,188
経常利益	百万円	6,912	8,010	9,938
四半期純利益	百万円	3,697	4,962	—
当期純利益	百万円	—	—	4,572
四半期包括利益	百万円	1,270	9,583	—
包括利益	百万円	—	—	3,737
純資産額	百万円	90,862	101,665	93,149
総資産額	百万円	2,137,084	2,183,563	2,387,298
1株当たり四半期純利益金額	円	20.86	28.00	—
1株当たり当期純利益金額	円	—	—	25.80
潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益金額	円	20.75	23.55	—
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	円	—	—	24.55
自己資本比率	%	4.21	4.62	3.87

		平成25年度 第3四半期 連結会計期間	平成26年度 第3四半期 連結会計期間
		(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)	(自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	円	6.81	10.53

- (注) 1 当行及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、主として税抜方式によっております。  
2 第3四半期連結累計期間に係る1株当たり情報の算定上の基礎は、「第4 経理の状況」中、「1 四半期連結財務諸表」の「1株当たり情報」に記載しております。  
3 自己資本比率は、((四半期)期末純資産の部合計－(四半期)期末少数株主持分)を(四半期)期末資産の部の合計で除して算出しております。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当行及び当行の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更及び新たに発生した事業等のリスクはありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下の記載における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当行グループ(当行及び連結子会社)が判断したものであります。

#### 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税率引き上げに伴う不透明な要素もありましたが、政府による経済政策への期待感や日銀の金融政策を背景に、企業収益が改善し、設備投資や雇用は回復傾向で推移しました。

当行が営業基盤とする愛媛県内の経済情勢におきましても、個人消費における消費税増税後の反動減も想定以内で、基調としては緩やかな持ち直しの動きが続きました。

このような状況にあって当行グループは、引き続きお客様第一主義の経営、地域経済に根ざした取り組みを実践しました。

経常収益は325億87百万円と、前年同期比6億30百万円減少しましたが、経常利益は前年同期比10億98百万円増加して80億10百万円となり、四半期純利益は前年同期比12億65百万円増加して49億62百万円となりました。

また、財務面においては総資産2兆1,835億円(前連結会計年度末比2,037億円減少)、純資産1,016億円(同比85億円増加)となりました。

預金等残高(譲渡性預金含む)は2兆2億円と前連結会計年度末から2,150億円減少しましたが、貸出金残高は、1兆4,201億円と前連結会計年度末比583億円増加しました。

セグメント情報につきましては、次のとおりであります。なお、記載の金額は内部取引相殺前の金額であり、課税取引については消費税及び地方消費税を含んでおりません。

銀行業の経常収益は、前年同四半期比8億13百万円減少して299億28百万円となりましたが、セグメント利益は前年同四半期比9億79百万円増加し75億33百万円となりました。

リース業、その他につきましては前年同四半期とほぼ同様の結果となりました。

今後も「最初に相談される銀行」という愛媛銀行ブランドの確立を目指し、地域No.1の金融サービスの提供を図るとともに、地域金融機関としての公共的使命と社会的責任を果たすため、金融サービス事業を通じてお客様により信頼される企業活動を実践してまいります。

国内・国際業務部門別収支

(業績説明)

当第3四半期連結累計期間の資金運用収益は、金利の低下はあったものの運用の多様化により246億72百万円と、前第3四半期連結累計期間比9億3百万円増加しました。資金調達費用については、調達コストの削減により前第3四半期連結累計期間比1億12百万円減少し、20億95百万円となりました。この結果、資金運用収支は225億76百万円と前第3四半期連結累計期間比10億14百万円の増加となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額(△)	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第3四半期連結累計期間	19,927	1,635	—	21,562
	当第3四半期連結累計期間	20,321	2,254	—	22,576
うち資金運用収益	前第3四半期連結累計期間	22,090	1,886	206	23,769
	当第3四半期連結累計期間	22,342	2,643	312	24,672
うち資金調達費用	前第3四半期連結累計期間	2,163	250	206	2,207
	当第3四半期連結累計期間	2,020	388	312	2,095
役務取引等収支	前第3四半期連結累計期間	929	48	—	977
	当第3四半期連結累計期間	480	44	—	524
うち役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	3,223	59	—	3,282
	当第3四半期連結累計期間	3,263	55	—	3,318
うち役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	2,294	10	—	2,305
	当第3四半期連結累計期間	2,782	11	—	2,793
その他業務収支	前第3四半期連結累計期間	4,842	178	—	5,021
	当第3四半期連結累計期間	3,541	63	—	3,604
うちその他業務収益	前第3四半期連結累計期間	5,145	178	—	5,324
	当第3四半期連結累計期間	3,579	63	—	3,642
うちその他業務費用	前第3四半期連結累計期間	302	—	—	302
	当第3四半期連結累計期間	38	—	—	38

(注) 1 「国内業務部門」は、当行及び子会社の円建取引、「国際業務部門」は当行及び子会社の外貨建取引であります。

ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

2 「相殺消去額」は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。

国内・国際業務部門別役務取引の状況

(業績説明)

役務取引等収益合計は、預り資産の販売手数料を中心に、前第3四半期連結累計期間比36百万円増加し、33億18百万円となりました。役務取引等費用は、前第3四半期連結累計期間比4億88百万円増加し27億93百万円となったことから、役務取引等収支は5億24百万円と前第3四半期連結累計期間比4億53百万円減少しました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額(△)	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	3,223	59	—	3,282
	当第3四半期連結累計期間	3,263	55	—	3,318
うち預金・貸出業務	前第3四半期連結累計期間	829	—	—	829
	当第3四半期連結累計期間	790	—	—	790
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	802	58	—	860
	当第3四半期連結累計期間	787	54	—	841
うち証券関連業務	前第3四半期連結累計期間	704	—	—	704
	当第3四半期連結累計期間	918	—	—	918
うち代理業務	前第3四半期連結累計期間	612	—	—	612
	当第3四半期連結累計期間	532	—	—	532
うち保護預り・貸金庫業務	前第3四半期連結累計期間	37	—	—	37
	当第3四半期連結累計期間	36	—	—	36
うち保証業務	前第3四半期連結累計期間	45	1	—	46
	当第3四半期連結累計期間	11	0	—	11
役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	2,294	10	—	2,305
	当第3四半期連結累計期間	2,782	11	—	2,793
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	160	10	—	171
	当第3四半期連結累計期間	156	11	—	168

(注) 「国内業務部門」とは当行及び子会社の円建取引、「国際業務部門」とは当行及び子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

国内・国際業務部門別預金残高の状況

○預金の種類別残高(未残)

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	相殺消去額(△)	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第3四半期連結会計期間	1,732,383	71,148	—	1,803,531
	当第3四半期連結会計期間	1,754,611	80,179	—	1,834,791
うち流動性預金	前第3四半期連結会計期間	647,792	—	—	647,792
	当第3四半期連結会計期間	684,849	—	—	684,849
うち定期性預金	前第3四半期連結会計期間	1,080,771	—	—	1,080,771
	当第3四半期連結会計期間	1,066,749	—	—	1,066,749
うちその他	前第3四半期連結会計期間	3,819	71,148	—	74,967
	当第3四半期連結会計期間	3,013	80,179	—	83,193
譲渡性預金	前第3四半期連結会計期間	165,352	—	—	165,352
	当第3四半期連結会計期間	165,471	—	—	165,471
総合計	前第3四半期連結会計期間	1,897,735	71,148	—	1,968,884
	当第3四半期連結会計期間	1,920,083	80,179	—	2,000,263

(注) 1 「国内業務部門」とは当行及び子会社の円建取引、「国際業務部門」とは当行及び子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

2 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金

3 定期性預金＝定期預金＋定期積金

国内・国際業務部門別貸出金残高の状況

○業種別貸出状況(末残・構成比)

業種別	前第3四半期連結会計期間		当第3四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内 (除く特別国際金融取引勘定分)	1,342,435	100.00	1,420,177	100.00
製造業	123,003	9.16	116,602	8.21
農業、林業	3,362	0.25	3,459	0.24
漁業	4,497	0.33	4,689	0.33
鉱業、採石業、砂利採取業	204	0.02	197	0.01
建設業	38,274	2.85	40,765	2.87
電気・ガス・熱供給・水道業	1,487	0.11	3,052	0.22
情報通信業	6,451	0.48	4,842	0.34
運輸業、郵便業	132,872	9.90	147,981	10.42
卸売業、小売業	101,483	7.56	101,381	7.14
金融業、保険業	34,544	2.57	45,858	3.23
不動産業、物品賃貸業	100,018	7.45	112,453	7.92
各種サービス業	145,247	10.82	152,807	10.76
地方公共団体	133,264	9.93	135,280	9.53
その他	517,721	38.57	550,805	38.78
海外及び特別国際金融取引勘定分	—	—	—	—
政府等	—	—	—	—
金融機関	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
合計	1,342,435	—	1,420,177	—

(注) 1 「国内」とは、当行及び子会社で特別国際金融取引勘定分を除いたものであります。

2 当行には海外店及び海外に子会社を有する子会社はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	500,000,000
計	500,000,000

###### ② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	177,817,664	同左	東京証券取引所 (市場第1部)	完全議決権株式であり、 権利内容に何ら限定のな い当行における標準とな る株式。 単元株式数は、1,000株
計	177,817,664	同左	—	—

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年12月31日	—	177,817	—	19,078	—	13,213

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、平成26年12月31日現在の株主名簿が作成されていないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成26年9月30日)に基づく株主名簿による記載を行っています。

## ① 【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 635,000	—	権利内容に何ら限定のない当行における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 175,978,000	175,978	同上
単元未満株式	普通株式 1,204,664	—	同上
発行済株式総数	177,817,664	—	—
総株主の議決権	—	175,978	—

(注) 1 上記の「完全議決権株式(その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が1千株(議決権1個)含まれております。また、「議決権の数(個)」の欄に、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数が1個含まれております。

2 単元未満株式には当行所有の自己株式115株が含まれております。

## ② 【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ㈱愛媛銀行	愛媛県松山市勝山町 2丁目1番地	635,000	—	635,000	0.35
計	—	635,000	—	635,000	0.35

## 2 【役員の様況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

#### 第4 【経理の状況】

- 1 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」（昭和57年大蔵省令第10号）に準拠しております。
- 2 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日）及び第3四半期連結累計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人の四半期レビューを受けております。

# 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
現金預け金	458,723	118,573
コールローン及び買入手形	15,000	5,000
買入金銭債権	27,184	65,064
商品有価証券	143	147
有価証券	475,055	524,468
貸出金	※1 1,361,788	※1 1,420,177
外国為替	9,586	11,807
リース債権及びリース投資資産	6,595	6,253
その他資産	8,503	10,966
有形固定資産	30,847	30,883
無形固定資産	650	633
繰延税金資産	3,162	732
支払承諾見返	7,730	6,358
貸倒引当金	△17,674	△17,501
資産の部合計	2,387,298	2,183,563
<b>負債の部</b>		
預金	1,823,191	1,834,791
譲渡性預金	392,168	165,471
債券貸借取引受入担保金	—	15,035
借入金	28,838	23,828
外国為替	3	5
社債	13,000	7,000
新株予約権付社債	8,000	8,000
その他負債	14,691	14,894
役員賞与引当金	50	—
退職給付に係る負債	1,063	1,065
役員退職慰労引当金	385	367
利息返還損失引当金	45	40
睡眠預金払戻損失引当金	143	143
繰延税金負債	—	59
再評価に係る繰延税金負債	4,835	4,835
支払承諾	7,730	6,358
負債の部合計	2,294,149	2,081,897
<b>純資産の部</b>		
資本金	19,078	19,078
資本剰余金	13,213	13,213
利益剰余金	45,068	48,967
自己株式	△227	△230
株主資本合計	77,133	81,029
その他有価証券評価差額金	8,118	12,664
繰延ヘッジ損益	5	—
土地再評価差額金	7,383	7,383
退職給付に係る調整累計額	△179	△163
その他の包括利益累計額合計	15,328	19,884
少数株主持分	688	751
純資産の部合計	93,149	101,665
負債及び純資産の部合計	2,387,298	2,183,563

## (2) 【四半期連結損益及び包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
経常収益	33,217	32,587
資金運用収益	23,769	24,672
(うち貸出金利息)	19,721	19,718
(うち有価証券利息配当金)	2,463	3,036
役務取引等収益	3,282	3,318
その他業務収益	5,324	3,642
その他経常収益	※1 840	※1 953
経常費用	26,305	24,576
資金調達費用	2,207	2,095
(うち預金利息)	1,551	1,487
役務取引等費用	2,305	2,793
その他業務費用	302	38
営業経費	17,799	17,776
その他経常費用	※2 3,690	※2 1,872
経常利益	6,912	8,010
特別利益	3	2
固定資産処分益	3	2
特別損失	215	31
固定資産処分損	53	30
減損損失	161	0
税金等調整前四半期純利益	6,699	7,982
法人税、住民税及び事業税	3,556	2,868
法人税等調整額	△585	100
法人税等合計	2,970	2,969
少数株主損益調整前四半期純利益	3,729	5,012
少数株主利益	31	49
四半期純利益	3,697	4,962
少数株主利益	31	49
少数株主損益調整前四半期純利益	3,729	5,012
その他の包括利益	△2,458	4,571
その他有価証券評価差額金	△2,458	4,560
繰延ヘッジ損益	—	△5
退職給付に係る調整額	—	16
四半期包括利益	1,270	9,583
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,228	9,519
少数株主に係る四半期包括利益	41	64

【注記事項】

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下、「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下、「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、並びに割引率の決定方法を、割引率決定の基礎となる債券の期間について、従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。なお、この変更に伴う損益等に与える影響は、軽微であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1. 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
破綻先債権額	1,908百万円	1,030百万円
延滞債権額	39,704百万円	39,860百万円
3ヵ月以上延滞債権額	76百万円	11百万円
貸出条件緩和債権額	13,952百万円	13,956百万円
合計額	55,641百万円	54,858百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

(四半期連結損益及び包括利益計算書関係)

※1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
償却債権取立益	1百万円	1百万円
株式等売却益	508百万円	495百万円

※2. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
貸出金償却	1,577百万円	544百万円
貸倒引当金繰入額	1,767百万円	825百万円
株式等売却損	87百万円	10百万円
株式等償却	11百万円	35百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
減価償却費	610百万円	575百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	531	3.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金
平成25年11月25日 取締役会	普通株式	531	3.00	平成25年9月30日	平成25年12月5日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	531	3.00	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金
平成26年11月21日 取締役会	普通株式	531	3.00	平成26年9月30日	平成26年12月5日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	30,462	2,189	32,651	565	33,217	—	33,217
セグメント間の内部経常収益	278	151	430	949	1,380	△1,380	—
計	30,741	2,341	33,082	1,515	34,598	△1,380	33,217
セグメント利益	6,554	24	6,579	337	6,916	△4	6,912

- (注) 1. 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。  
2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、コンピュータシステム管理・運營業務、クレジットカード業務及び人材派遣業務等を含んでおります。  
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っており、また、セグメント利益の調整額△4百万円は、セグメント間の取引消去であります。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	29,635	2,361	31,996	590	32,587	—	32,587
セグメント間の内部経常収益	293	136	430	1,007	1,438	△1,438	—
計	29,928	2,498	32,427	1,598	34,025	△1,438	32,587
セグメント利益	7,533	87	7,620	396	8,016	△5	8,010

- (注) 1. 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。  
2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、コンピュータシステム管理・運營業務、クレジットカード業務及び人材派遣業務等を含んでおります。  
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っており、また、セグメント利益の調整額△5百万円は、セグメント間の取引消去であります。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動が認められるものではありません。

(有価証券関係)

※1 企業集団の事業の運営において重要なものであり、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。

※2 四半期連結貸借対照表の「有価証券」のほか「現金預け金」中の譲渡性預け金を含めて記載しております。

#### 1 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成26年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
国債	—	—	—
地方債	—	—	—
短期社債	—	—	—
社債	5,644	5,606	△37
その他	—	—	—
合計	5,644	5,606	△37

(注) 時価は、前連結会計期間末日における市場価格等に基づいております。

当第3四半期連結会計期間(平成26年12月31日)

	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
国債	—	—	—
地方債	—	—	—
短期社債	—	—	—
社債	5,402	5,396	△5
その他	—	—	—
合計	5,402	5,396	△5

(注) 時価は、当第3四半期連結会計期間末日における市場価格等に基づいております。

## 2 その他有価証券

前連結会計年度(平成26年3月31日)

	取得原価 (百万円)	連結貸借対照表計上額 (百万円)	差額 (百万円)
株式	15,217	24,108	8,891
債券	290,454	293,567	3,113
国債	118,207	119,274	1,066
地方債	76,827	77,999	1,171
短期社債	—	—	—
社債	95,418	96,293	874
その他	148,726	148,547	△178
合計	454,398	466,224	11,825

当第3四半期連結会計期間(平成26年12月31日)

	取得原価 (百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額 (百万円)
株式	15,026	28,387	13,360
債券	281,991	286,341	4,349
国債	122,452	122,492	40
地方債	75,579	77,671	2,091
短期社債	—	—	—
社債	83,959	86,177	2,217
その他	208,984	210,041	1,057
合計	506,002	524,770	18,768

(注) その他有価証券で時価のあるもののうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって四半期連結貸借対照表計上額(連結貸借対照表計上額)とするとともに、評価差額を当第3四半期連結累計期間(連結会計年度)の損失として処理(以下「減損処理」という。)しております。

前連結会計年度における減損処理額はありません。当第3四半期連結累計期間における減損処理額は35百万円(全額株式)であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、取得原価に対して時価が50%以上下落した場合、また、時価の下落が30%以上50%未満の場合は、過去の時価の水準等を勘案し、「回復する見込みがある」と認められない場合であります。

(金銭の信託関係)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

企業集団の事業の運営において重要なものであり、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められるものではありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	円	20.86	28.00
(算定上の基礎)			
四半期純利益	百万円	3,697	4,962
普通株主に帰属しない金額	百万円	—	—
普通株式に係る四半期純利益	百万円	3,697	4,962
普通株式の期中平均株式数	千株	177,203	177,185
(2) 潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益金額	円	20.75	23.55
(算定上の基礎)			
四半期純利益調整額	百万円	0	5
うち支払利息(税額相当額控除後)	百万円	0	5
普通株式増加数	千株	981	33,755
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

平成26年11月21日開催の取締役会において、第111期の中間配当につき次のとおり決議しました。

中間配当金額	531百万円
--------	--------

1株当たりの中間配当金	3円00銭
-------------	-------

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年 2月10日

株式会社愛媛銀行  
取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 伊加井 真 弓 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 加藤 信 彦 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社愛媛銀行の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成26年10月1日から平成26年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社愛媛銀行及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年2月13日
【会社名】	株式会社愛媛銀行
【英訳名】	The Ehime Bank, Ltd
【代表者の役職氏名】	頭取 本田 元広
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	愛媛県松山市勝山町2丁目1番地
【縦覧に供する場所】	株式会社愛媛銀行 高知支店 (高知市はりまや町1丁目4番5号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) (注) 高知支店は、金融商品取引法の規定による備付場所ではありませんが、投資者の便宜のため備えるものであります。

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当行頭取 本田元広は、当社の第111期第3四半期（自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。